

苅田町合併 70 周年記念式典 式辞



本日ここに、苅田町合併 70 周年記念式典を挙行了いたしましたところ、公私ともに御多忙の中、ご来賓並びに多数の町民の皆様にご臨席を賜り、心より厚くお礼を申し上げます。

1955 年 1 月に旧苅田町、小波瀬村、白川村の合併により、現在の苅田町が誕生しました。昭和から平成、そして令

和へと移り変わる時代の中で、長い年月を経て、今日の苅田町があることに心から感謝し、本日お集まりの皆様と 70 周年をお祝いすることができるのは、この上ない喜びです。

さて、苅田町は、港湾と臨海工業地帯を基盤とした工業港湾都市として大きく発展してきました。重要港湾苅田港を中心とした臨海部には、日本有数の企業が立地し、北九州空港や、東九州自動車道などの交通ネットワークの整備により、北部九州を代表する交通拠点都市となりました。

さらに、現在北九州空港の滑走路の延伸工事が行われています。新松山工業団地への新しい企業の進出も決定し、港湾・空港・高速道路が整備され、交通の結節拠点としてさらに発展することが期待されています。

その一方で、国指定史跡の石塚山古墳、御所山古墳、国指定天然記念物の青龍窟や国指定重要無形民俗文化財の等覚寺松会など、貴重な歴史、伝統・文化、豊かな自然を継承してきました。

今日の苅田町があるのは、歴代の町長をはじめ、町議会議員各位並びに多数の町民の皆様など、お一人お一人のご苦勞やご尽力の積み重ねの賜物であり、改めて、心より敬意と感謝を申し上げます。

さて、急速な少子高齢化の進行により、多くの自治体が人口減少問題を抱える中で、苅田町においても、人と人、地域同士の結びつきを大切にし、未来につながる施策を推進し、持続可能な自治体を目指す必要があります。

近年、各地で発生している豪雨や地震などの自然災害の脅威も深刻化しています。災害はいつ、どこで起こるか分からないことを認識し、苅田町でもあらゆる災害に備え、町民の皆様生命や安心安全な暮らしを守る取り組みを積極的に推進してまいります。

また、合併以降、高度経済成長を背景とした企業立地などにより人口が急速に増加する中、さまざまなインフラ施設が整備され、町の発展や住民生活に寄与してきました。多くの施設で老朽化が進み、改修や建て替え時期を迎えます。長期的な視点をもって、更新や長寿命化を行い、行政サービスの水準を確保しながら工事を計画的に実施してまいります。

一方で、未来を担う子どもたちへの支援も必要です。小中学校への冷暖房の設置や、一人一台タブレット、無線通信ネットワークの整備、校舎の長寿命化改修など、子どもたちが安心して教育を受けることができる環境を整え、子どもたちの可能性を大切に育ていき、苅田町の将来を支える子どもたちへ投資する取り組みを、推進してまいります。

さて、これから迎える新たな時代は、私たちを取り巻く環境が大きく変化していく時代です。多くの課題の解決のためには、強固な財政基盤が必要であり、今後も健全な財政体質の確立を目指します。

これからも苅田町は、SDGsの達成やカーボンニュートラルの実現、自治体DX推進に向けた取り組みなど、変革の時代の波に乗り遅れることなく、未来の世代にも、この豊かな自然と暮らしを引き継いでいける様なまちづくりを進めてまいります。

町の発展を支えた先人たちに感謝するとともに、産業の発展と豊かな自然環境、歴史文化、暮らしの調和を図りながら、町の更なる飛躍の実現に向け、「一人ひとりが輝く もっと快適 住みやすいまち 苅田」を目指し、未来へつなげるまちづくりを町民の皆様と一緒に進めてまいります。今後とも、町政運営にご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。式辞といたします。

苅田町合併70周年

令和7年1月23日

苅田町長 遠田 孝一